

# 丸エビ倶楽部 茨城町の生産者たち

## 食味にこだわった鳥羽田梨園の梨!

鳥羽田さんは、ピーマン・ブロッコリー・とうもろこし等の野菜を丸エビ倶楽部に出荷しています。その他にも直売所向けに多種多様な野菜を生産していますが、本職は「梨」です。鳥羽田梨園を営み、夏秋期は、まさに寝る間もないほどに、多忙な毎日となります。

広い面積の梨を管理していく事は容易ではありません。少しずつ面積を減らしていかざるを得ない所ではありますが、その分、より美味しい梨を届けられるように！食味にはこだわっています！これまでも、生活クラブ全体に向けてクオリティの高い鳥羽田さんの梨を提案しようと試みてまいりましたが、出荷形態や価格等で折り合いが付かず……。今回は、茨城単協だけの特別取組ということで実現しました！



梨の生産者  
鳥羽田 恵子さん

## さつまいもといったら、やっぱり茨城でしょ!

茨城県はさつまいもの大産地ですが、ここ数年のさつまいもブームと反比例して、茨城県のさつまいも農家が減少中です。さつまいも栽培は、広大な土地と長期間の栽培管理、そして設備投資が大前提となり、新規就農のハードル高き品目でもあります。近年の気候変動が影響して毎年同じように作るのも容易ではなくなっており、形が悪くなったり、新しい病気が出てきたり、悪さをする虫がいたりとこれまで経験にない苦労も増えています。

さつまいもブームと気候変動の影響によって、今や、東北地方や北海道でさつまいも栽培が行われるようになりました。雨ヶ谷啓治さんは、「やっぱり茨城県の気候・環境・土質があってこそそのさつまいもだと思うんだよ。そして、50年以上に渡って続けてきた堆肥やボカシを使った土づくりがあるからこそその旨味を味わってもらいたいねえ。」

この日は、息子さんの祐一さんとのツーショットを！「さつまいもづくりは、まだまだ俺の仕事」と啓治さんは言いますが、親父の背中を見て…雨ヶ谷家のさつまいもづくりが続いていくと信じています。



さつまいもの生産者  
雨ヶ谷 啓治さん 祐一さん

## 次世代につなぐ、ごぼう栽培

次年度からは、ごぼう栽培を娘たち世代に任せていく考えている大臣さん。「ごぼうは、生育日数もかかるし、土地も機械も必要…天候に左右されやすい根菜栽培はそろそろ潮時かなあと思っていたけど、娘たちが繋ぐ決心をしてくれてね。機械も揃えたし、自分たちなりに効率よくできる方法を探して頑張っているってほしいね。何と言っても根菜類の後継者不足は深刻だからね。続けてくれる事は大事にしなきゃね」と、若者たちを見守っています。昨年、大雨冠水被害で大幅な減収となってしまった「ごぼう」。今年は、今のところ自然災害もなく、アブラムシも少なめのように、収量UPに一同望みを！若者のモチベーションUPに繋がるような作柄と需要を期待しています。



ごぼうの生産者  
平澤 大臣さん

ごぼうの生産者  
平澤 里紗さん

ごぼうの生産者  
大高 一浩さん

そもそも「丸エビ倶楽部ってなんだっぺ?」という組合員さんは、  
まずはこちらをお読み下さい。

## 丸エビ倶楽部とは!

1995年創業。茨城県の中央に位置する茨城町に事務所を構え、県内各地に生産地を持つ生産者組織。関東ローム層の土壌に適した根菜類を中心に、年間40品目の農産物を生産しています。土地を守り豊かにしながら、人の心と体を豊かにする持続的な食料の再生産を目指して、生産者自身が生産のみならず、事業活動にも参画しています。生活クラブ茨城とは、組合員参加のイベント「まるごと茨城・田んぼの学校、はたけの学校」などで交流をしつつ、組合員の声を集めて作ったおコメ「げんき米」を生産。他、生活クラブ連合会とも提携し、21都道府県の組合員に向けて野菜類を作っています。



「げんき米」を食べるには「登録」が必要です。詳しくは各センターにお電話ください。

自然環境に配慮し  
農薬や化学肥料に頼らずに栽培された  
生活クラブ茨城独自の「おコメ」です。